

『選挙の投票率の改善について』と『小中学校教諭の人員充足率と仕事量について』質問致します。

まず、『選挙の投票率改善について』、

本市の期日前投票所は、市役所、塚口さんさんタウン、開明庁舎、あまがさきキューズモールの4カ所です。

8月時点のデータですが、近隣都市を調べますと人口487,593人の西宮市は8カ所、本市よりも人口が約半数の、宝塚市は人口224,438人ですが期日前投票所は6カ所もあります。開所の時間は朝8時半や9時で、閉所は17時半や20時です。

8月23日投開票された箕面市長選挙・箕面市議会議員選挙の応援に連日入っておりましたが、箕面市は本市の1/3の人口、令和2年(2020年)8月時点で135,752人。期日前投票場所は4カ所あり、箕面駅前の平尾会館は朝6時半から夜10時まで、箕面市役所と豊川会館は朝8時から夜8時まで、キューズモールは朝10時から夜9時までであり、期日前投票所と日数の増加、時間の拡充の効果で、箕面市長選挙と箕面市議会議員選挙は投票率49%、前回46.3%で、4年前より3.04ポイント上回り、中でも止々呂美地区は65.47%と65%を超える投票所もありました。

本市と比較しますと、前回の市長選挙は平成30年11月に執行され、投票率は24.71%、市議会議員選挙は平成29年6月に執行され、投票率は42.42%でした。

倉田哲郎前市長のご勇退ということもあり、倉田前市長もTwitterで投票の呼びかけを頻繁にされておられた事も大きかったと思います。

投票日の当日朝一番に来ていたのが18歳の女子高校生だったと上島一彦箕面新市長も話されていました。

お尋ねします。

質問1-1:

近隣都市の期日前投票所について、現状は把握されているのでしょうか。

質問2-1:

次に、『小中学校教諭の人員充足率と仕事量について』

新型コロナウイルス感染拡大で休校が続いていた小学校が、6月1日から授業を再開しました。久しぶりの登校に午前と午後の分散登校に不安を感じる児童生徒達。

教育委員会から委嘱された、学校と地域をつなぐ役割を担う「地域学校協働活動推進員(コーディネーター)」の園和小学校地域担当者に、校長先生から分散登校で登校時間がバラバラになるため、子どもたちの安全確保が課題だと相談を受け、こういった背景の中、地域学校協働活動推進員のお声掛けで登校時の見守り活動がスタートしました。私もメンバーであったので、6月1日から参加して、現場の状況を把握しています。

そのお陰で毎日の子ども達の登校の様子を見る機会を持つことが出来ました。泣きながら登校する生徒、下を向いて登校する生徒や声が出なかった生徒達が、日に日に大きな声で挨拶をしてくれるようになり、話しかけてくれる生徒が増えたり、子ども達の表情や姿が明るくなりました。スクールサポートスタッフの増員により、登校時の検温や登下校時の見守りや事務補助等を代行され、教職員へのサポート体制も強化されています。

しかし、学校現場は以前の学校生活とは異なり、教職員の業務の上に更に、検温、トイレ掃除、コロナ対策が加わり、大変多忙なものになっています。

令和2年1月17日に告示され、4月1日から実施されている、「教職員の働き方改革」（公立学校の教育職員の業務量の適切な管理その他教育職員のサービスを監督する教育委員会が教育職員の健康及び福祉の確保を図るために講ずべき措置に関する指針）の一環として文部科学省から指針が出されています。

勤務時間外労働が問題になっている中で、「教職員の働き方改革」の取組が進められ、ガイドラインと共に、働き方改革に取り組む学校が増えています。

市として「働き方改革」の考え方と取組み状況について、教育委員会の方向性をお聞かせ下さい。

以上で、1問目の質問を終わります。2問目からは一問一答にて行います。

#### 【一問一答】

##### 質問1-2：

『選挙の投票率の改善について』引き続き、お伺い致します。

過去に佐野議員も質問をされておりますが、期日前投票の場所を何カ所まで増設していくか具体的な数字はないと答弁されています。今も現状のままが良いとお考えですか。

##### 質問1-3：

総務委員会では、開明庁舎での投票所について議論されていましたが、結果どのようになりましたか。

##### 質問1-4：

期日前投票所の数が増える事で人は分散しますし、新型コロナウイルスの3つの密を避けるメリットもあります。

買い物ついで、お出かけついでに投票が出来る場所、あまがさきキューズモールのように商業施設、例えばイオンや商店街、駅中の空いている場所（例えば阪急園田駅なら阪急プラザ内）に設置されれば投票率は必ず上がります。来年は、尼崎市議会議員選挙が施行されます。

本市も投票率を上げる為に、投票所を増やすべきだと考えますがご見解をお聞かせ下さい。

質問 1 - 5 :

箕面市では、令和元年 7 月第 25 回参議院議員通常選挙から、箕面市のキャラクター・滝ノ道ゆずるとモミジヌが、ポストカードとしても使用できる投票済証を希望者に約 45,000 枚配布されています。ポストカード型の投票済証配布は全国的にもかなり珍しい取り組みです。本市も尼崎城がデザインされた記念投票済証明書を数量限定で（期日前投票所、当日投票所共に各投票所 100 枚を）尼崎城が開城される 4 カ月前の執行された、2 年前の市長選挙で発行されました。

来年度の尼崎市議会議員選挙でも、啓発と投票率向上を期待して作成されてはいかがでしょうか。

質問 2 - 2 :

『小中学校教諭の人員充足率と仕事量について』の質問に移ります。

中学校ではクラブ活動の事情がありますが、教科担任制であり、担当教科により違いはあるものの、日に 2~3 時間は授業に関わらない時間帯があります。

しかし、学級担任制である小学校の教員は、全教科を見る為、ほぼ毎時間授業を行っており、休み時間も児童と一緒に活動しており、児童が下校する 16 時前後まで空き時間がほとんどない環境です。

本市の教職員は、他都市と比べると教職員間の会議、打ち合わせ等は決められた時間で会議運営を合理化され、徹底的に時間を工夫され勤務時間内で行われており、進んでいるように感じます。

しかし、打ち合わせをただけでは終わりません。例えば、翌日の理科の授業の実験の準備が出来ない等、他授業準備の時間が取れず、子育て中の先生は子どもが家で待っているから持ち帰りも仕方ありません。また、高学年の担任は 15 時半から 16 時頃に終礼。

16 時 50 分に退勤となれば、わずか 1 時間程では業務や翌日の準備は終わらないと思います。勤務時間外の対応とならざるを得ない状況です。

自宅に持ち帰って仕事をする教職員は決して少なくないのではないのでしょうか。

本市の教職員は、他都市と比べると尼崎の風土と申しますか、人情深く、多くの先輩教職員が自分の業務は後回しにして、優先して若い教師に時間を作り、サポートされています。

ですから、定刻で退勤すると先輩からのアドバイスや、聞きたい事も聞く時間がありませんし、頼る時間がなくなるのではないかと懸念します。

特に小学校の先生は中学校の先生と違って、交流フォローする時間がありませんし、新任教師を育てるにも、今後定時で退勤するとほぼ接点がありません。

教育長は、このような現場の声はお聞きになったことはございますか。

質問 2 - 3 :

教職員の交流の場は、どのような所で行われているのでしょうか。

質問 2-4 :

産休等代替の臨時講師を補充するのに苦労しているとお聞きします。

正規の教員が見つからず、多くの学校現場で欠員を埋めるために臨時の講師等を探す事態になっていると伺っています。

正規採用の教員は授業だけでなく部活動、保護者への対応といった多忙さの中、教員のなり手が減っています。

毎年度、県教委に要望や意見をされて、本市が要望した教職員の人員の確保について、希望した定員と採用人数に乖離があるのか教えて下さい。

質問 2-5 :

私達、議員も議会以外で陳情やご相談が早朝や夜中に連絡が入る事もありますし、緊急を要する時は、昼も夜も関係ありません。市民の為にやりがいを持って仕事をしています。

教育長は、教師は聖職、それとも労働者、どちらだと思われませんか。

質問 2-6 :

「働き方改革」の一環として、教職員の勤務時間外の負担を減らす為に、他都市では勤務時間外の電話対応は行わないものとし、自動音声案内で対応されている学校もあります。本市でも勤務時間外の自動音声案内の導入の検討をされてはいかがでしょうか。

質問 2-7 :

各学校で違いはあるかと思いますが、市教委では、勤務時間内での仕事量、残業をどのように把握され、県から市への取組改善を求められているのでしょうか。

質問 2-8 :

正規の教員と臨時講師や時間講師等、非常勤の教員とでの業務内容の違いはあるのでしょうか。

質問 2-9 :

教員の働き方改革に向けて、本市の現在の取り組み状況について、新学習指導要領の全面実施も見据え、各学校における行事等の見直しも行う予定はあるのでしょうか。